

2 本県教育の基本理念とめざす「あいちの人間像」

(1) 基本理念

教育基本法には、教育の目的として、「人格の完成」と「国家及び社会の形成者の育成」を掲げています。また、前述のように「懇談会」の最終報告において、これからの愛知の教育の取組方向として、「善悪をわきまえ、他人を思いやる心」と「社会で役立つための意欲・力」を身に付けさせることが示されています。

これらを踏まえ、本アクションプランでは、学校教育だけでなく、生涯学習・スポーツなどを含めた本県の教育の基本理念を次のとおりとします。

**「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を
基本的視点とした「あいちの人間像」の実現**

(2) めざす「あいちの人間像」

さらに、本県では、平成 18 年 3 月に、これからの愛知の方向性を明らかにする戦略的・重点的な地域づくりの羅針盤として、「新しい政策の指針」を策定し、今後取り組むべき基本課題の一つとして、「愛知の創造的発展を担う人づくり」を掲げました。具体的には、

豊かな人間性や社会性を身に付けることはもとより、健やかな体の保持・増進、さらには学力や学習意欲の一層の向上、職業生活に必要な能力の育成など、社会で役立つ意欲・力の育成強化を図っていくこと。

文化創造やイノベーションをリードする創造性に富んだ人づくりや国際社会を生きる教養ある人を育てること。

モノづくりを支える人材を将来にわたって安定的かつ継続的に確保すること。が必要であるとうたっています。

これを受けて、本県教育の基本理念で掲げた「あいちの人間像」を次のとおりとします。

かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間

自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間

健やかな体をつちかい、豊かな文化を継承し創造することのできる人間

次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間

めざす「あいちの人間像」は、自らの人生を充実させ、よりよく生き抜く力を身に付け、社会、そして世界の一員として自らを生かすことのできる人間の姿であり、これからの愛知を担うべきよき家庭人、よき親、よき社会人、よき職業人としての県民の姿です。本県では、これからの教育に課せられた大きな使命として、「あいちの人間像」の実現をめざします。

イノベーション：経済や産業などの発展につながる、技術や仕組みの革新。

かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間

寄せる思い

平成 5 年 1 月 12 日、愛知県岡崎市の一人の女性が慢性骨髄性白血病によってこの世を去りました。享年 21。彼女は、病名を知らされた時の失意と絶望の中でも決してあきらめることなく病氣と正面から向き合いながら強く生き抜きました。両親は、後に次のように記しています。

「私たちに『私、お父さんとお母さんの子で良かった。本当にありがとう』と言ってくれた時、この子を育ててきて良かった、自分たちの子で良かったと、誕生からの日々を思い出しました。」(『いのち煌めいて 由希子白血病と闘った青春』中日新聞本社刊)

人はそれぞれにかけがえのない命を授かっています。その命は、自分自身のものであると同時に家族や周りの人々にとっても大切なものです。

しかし、一方で連日のように人の死に関わる事件が報道されています。本県においても、近年虐待による幼児・児童の死亡や通り魔による殺人事件が相次ぎ、さらには年々自殺者も増加しているといわれています。かけがえのない命がこれほど軽々に扱われている時代も少ないのではないのでしょうか。

また、リセット世代と呼ばれる子どもたちの中には、「死んだ人が生き返る」「命は自分だけのもの」と思っている子どもが増えているといわれます。命が人為的に操作可能なものであり、消去しても容易に再生できると思っている子どもたちの数が増加しているとなれば、その根は深く憂うべき状況にあるといわなければなりません。

かつて家庭や地域では、「周りに迷惑をかけない」とか「互いに助け合う」ということが当然の約束事としてあり、それが地域社会全体の安定と連帯を保っていました。しかし、いつのころからか「法を犯していなければ何をしても構わない」といった風潮の中で、大人自身が「個人の自由」の名の下にルールを破ったり、モラルを軽視したりする無責任さ、身勝手さが見受けられるようになり、こうした倫理観の欠如は、子どもたちにも反映しています。

愛知県では、自他の命をかけがえのないものとして尊ぶとともに、良い行いに感銘し間違った行いを正すといった正義感、社会の基本的なモラル、他人を思いやる心、人権を尊重する心、美しいものに感動する心などをもった人間を育てます。

自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間

寄せる思い

かつて子どもたちは、親の働く姿を間近で見たり、日常的な会話の中から働くことへの興味や将来への夢を育んだりしながら、自然に将来の生き方や勤労観・職業観を身に付けてきました。

しかし、社会構造の変化に伴い、都市化が進み、農業・自営業が減少する中で、子どもが大人の働く姿に接する機会が減り、働くことの意義を実感することが少なくなってきたことも確かです。

64万人。これは、平成17年度のニートの数です。また、同時にフリーターも201万人を数え、若年者の就業を巡る状況は大きな社会問題となっています。(総務省統計局「労働力調査」)

その背景には、雇用形態の変化があるものの、子どもたちの困難に立ち向かう強い意志、問題の解決に積極的に挑む知的探究心、主体的に目標を設定し必要な知識・情報を選択活用していく能力、自己を抑制し、他者を尊重しつつ、良好な人間関係を築いていくことのできる資質の欠如が存在しているともいわれています。

若者は言います。「自分に合った職業、自分の好きな道を探している」「会社のブランド、年収の多寡も気になる」「対人関係が苦手だ」「自己実現、自分探しのため」等々。

もとより職業は千差万別です。どの仕事も人それぞれであり、精一杯やった結果として個性や自分らしさが生まれるのです。

私たちは、こうした問題を現代社会の歪みの一断面ととらえながらも、子どもと社会や職場との接点を広げ、働くことや社会で役立つことの大切さ、楽しさ、厳しさ、そして、何より自分の足で立つことのすばらしさを子どもたちに伝えていかなければなりません。

また、職業生活を全うした後も、それまでの経験を生かしたり、新たな生きがいを求めて、就労やボランティア活動など積極的に社会に参加したりしている人もいれば、退職後、何をしてよいか分からずいたずらに時間だけを過ごしてしまう人もいます。一人一人が充実感をもって幅広く活躍し、その活動が社会に生かされなければなりません。

愛知県では、子どもたちに基礎的基本的な学力を身に付けさせることはもとより、多くの社会体験をさせるなどして、自分の将来の生き方を考え、勤労観・職業観や社会性を身に付けた人間を育てます。また、生涯にわたって、仕事だけでなく家庭や地域コミュニティ、ボランティア活動など幅広く社会で活動できる人間を育てます。

健やかな体をつちかい、豊かな文化を継承し創造することのできる人間

寄せる思い

「学力低下には敏感であるが、体力低下には関心が薄い」。ある新聞の報道です。今日、わが国は飛躍的な経済的発展によって生活が豊かで便利になりました。この中で、子どもたちの身長、体重などの体格は、食生活や生活習慣の変化などを背景に大きく向上しましたが、一方で、体力・運動能力については、昭和 60 年ごろを境にして敏しょう性を除いて長期的な低下傾向にあるといわれています。その原因は、日常的に体を動かすことが少なくなったこと、スポーツや外遊びに費やす時間や空間が減少したこと、生活習慣の乱れなどがあげられます。

たくましく生きるための健康や体力は、人間の活動の源であり、人が生涯にわたっていきいきと生きるために、必要不可欠なものです。また、スポーツ活動を通じて、「体」の面だけでなく、社会的な規範を守る精神や思いやりの心などを育むことは、子どもたちが知・徳・体のバランスのとれた成長をしていく上でも極めて重要です。

私たちは、体力低下に強い関心をもって、心身の健康増進活動や日常的なスポーツ活動の実践、健全な食生活の実現を促すことによって、生涯にわたり健康な生活を送るための基礎をつちかわなければなりません。

人々は、生きがいに満ちた豊かで潤いのある生活を求めています。そのために、情操豊かな優れた文化芸術に接する機会が必要です。

「文化」とは、個性を伸ばし創造性をつちかうとともに、自己の向上をめざす自発的な営みであり、趣味的なものから専門的なものまで、子どもからお年寄りまで、個人から集団までとそのとらえは幅広いものがあります。

また、先人の残した文化財や郷土芸能などの文化遺産はふるさとの生活や歴史を理解する上で欠くことのできないものであり、貴重な財産です。文化遺産の保存継承に努めることは現代に生きる私たちに課せられた大きな使命でもあります。

私たちは、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を営むために不可欠な文化を育むとともに、一人一人が文化創造の担い手であることをしっかりと自覚していかなければなりません。

愛知県では、心身ともに健やかな、知・徳・体のバランスのとれた人間を育てます。また、国や郷土の歴史と文化を正しく理解し、文化の向上発展のためになくてはならない文化財の適切な保存・活用を図るとともに、常に新たな文化の創造に努める人間を育てます。

未来を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間

寄せる思い

「This is a nut .(これはナットです) This is a bolt .(これはボルトです)」教師の発音をまねて、教室では、40 数人の少年たちが、声を合わせていた。敵性言語として、英語が目の敵にされていた第二次大戦中のことである。 ある技能養成所の授業風景より

本県は、自他ともに認める「モノづくり愛知」の名のとおり、世界をリードする企業を有し、日本経済の中心として活気を呈しています。その陰には、こうした多くの人たちの血と汗の努力がありました。

かつてわが国は、戦後の廃墟の中から欧米諸国に追いつき追い越すべく努力し、その結果、驚異的な経済成長を遂げ、世界経済の中で大きな地位を占めるに至りました。今や欧米先進諸国の開発した科学技術を活用するだけでなく、自ら科学技術を創造し、新しいフロンティアを開拓していくことが求められるようになってきました。

私たちの住む美しい日本、そして、地球を守っていくためには、自然との共存、環境への配慮という視点が重要です。本県では、平成17年、「自然の叡智」をテーマとして愛知万博（愛・地球博）を開催しました。会場づくりや運営にあたっては、会場のメインストリートの歩道の一部分にスギの間伐材が、会場間の移動に燃料電池バスが、また、会場内のレストラン等では、微生物の働きで分解される「植物プラスチック」製の食器が使用されるなど、自然環境に負荷をかけない取組が行われました。こうした貴重な体験を通して得られた成果を全国へ、そして世界へ発信していくことこそ愛知県民に与えられた責務であると思います。

来るべき時代は、変化の激しい、先行き不透明な、厳しい時代であるといわれています。グローバル化の進展、情報化の進展、環境問題、科学技術の発展など、社会の変化の方向をしっかりと見据えていくことは、これからの教育にとって極めて重要な課題であると考えられています。

愛知県では、「新しい時代を切り拓き、世界に視野を広げ活動することのできる個性的で多様な人材の育成」と「変化の激しいこれからの社会を生き抜いていくために必要な資質や能力の育成」という視点に立って、これからの愛知に生きる人間を育てます。